

【ソフトウェア使用許諾書】

下記の条項は株式会社アーク情報システム（以下「ARK」といいます）が、「HD 革命 /WinProtector Ver.4」（コンピューター・ソフトウェア、マニュアル、その他関連資料を含み、以下「本ソフトウェア」といいます）に適用いたします。

1. 使用許諾

- ①お客様は本ソフトウェアを、1台のコンピューターに限り使用できます。
- ②お客様は本ソフトウェアのバックアップを目的に、ただ一つの複製を作成することができます（バンドル版は除きます）。

2. 使用許諾期間

- ①本契約は、お客様が本契約の内容に同意して本ソフトウェアの使用を開始したときより発効し、お客様が本ソフトウェアの使用を止められるまでを有効とします。
- ②お客様が本契約のいずれかの条項に違反した場合、ARKは本契約を一方的に終了させていただくことがあります。

3. 保証および責任の内容

- ①CDおよびマニュアルに物理的な欠陥がある場合は、購入後90日以内は無償で交換いたします（バンドル版は除きます）。ただし、お客様は本ソフトウェアの購入日を証明できる写しを添付しなければなりません。それ以外の場合は実費をご負担いただきます。
- ②ARKは、本ソフトウェアの仕様およびサービスの内容を予告なしに変更することがあります。なお、本製品のサポートサービス終了に関しては、Webページにてご案内いたします。
- ③ARKは、サポートを終了した製品に関しては、サポートサービスを提供する義務を負わないものとします。
- ④サポートサービスは、ARKの規定に沿って電話、メール、FAXで行いますが、サポートサービスがお客様の目的に適合することを保証するものではありません。
- ⑤ARKは、ユーザー登録がなされない場合や、登録変更の届け出がなされない場合、またはその内容に不備がある場合において、ARKからお客様へ連絡の不達において生じる不利益および損害については、一切の責任を負うものではありません。なお、メール等でご案内する本ソフトウェアに関する情報やサポートサービスの内容に関しては、Webサイトでも同内容のご案内をしておりますので、こちらをもってお客様へのご連絡とさせていただきます。
- ⑥ARKおよびMicrosoft（バンドル版においては本ソフトウェアの提供先も含みます）は、いかなる場合にもお客様が本ソフトウェアを使用した結果に関して一切の責任を負うものではありません。
- ⑦本契約のもとで、本ソフトウェアの品質および性能に関して発生する問題は、お客様の費用負担をもって処理するものとします。
- ⑧本契約のもとで、ARKがお客様に負担する責任の総額は、本ソフトウェアの購入金額を超えないものとします。
- ⑨本ソフトウェアのサービス（主にサポートサービスとなりますがこれに限りません）は日本国内に限定されるものとします。また、日本語で対応することとします。

4. 禁止事項

- ①本ソフトウェアを逆コンパイルまたは逆アセンブル、またはその他の方法でソースコードを解析すること。
- ②本ソフトウェアを譲渡、転貸、再販売、輸出すること。
- ③ARKへの文書による事前の承諾なしに、本ソフトウェアの二次著作物を創作、譲渡、販売、転貸すること。
- ④ARKへの事前の承諾なしに、本ソフトウェアを引用し書籍を刊行すること。
- ⑤ネットワークにおいて、本ソフトウェアを私的使用を超える範囲で利用すること。

5. その他

- ①お客様およびARKは、本契約に関連して発生した紛争については、東京地方裁判所を第一審の管轄裁判所とするものとします。

著作権

- ・HD 革命 /WinProtectorの著作権は株式会社アーク情報システムが有しています。
- ・HD 革命は株式会社アーク情報システムの登録商標です。

目次

第1章 HD 革命 /WinProtector の使用開始にあたって	・ HD 革命 /WinProtector をご利用いただけるシステム環境1-2 ・ HD 革命 /WinProtector のインストール1-3 ・ HD 革命 /WinProtector 使用時の注意事項・制限事項1-4 ・ データトランスファー使用時の注意事項・制限事項1-6
第2章 HD 革命 /WinProtector を使用する	・ HD 革命 /WinProtector の基本機能2-2 ・ ドライブの保護2-3 ・ ドライブの保護の解除2-4 ・ モニターウィンドウと一時ファイル容量2-5 ・ 解除セクターと終了ダイアログ2-6 ・ オプションの設定2-7
第3章 便利ツール	・ ComfortDisk3-2 ・ データトランスファー3-3 ・ ドライブ情報の取得3-7 ・ コンピューター情報の取得3-8 ・ ネットワークマネージャー3-10
付録	・ 用語の解説付録 -2 ・ (株)アーク情報システム お客様情報保護方針付録 -6 ・ ユーザーサポートのご利用にあたって付録 -8 ・ ユーザーサポート申込書付録 -9

第 1 章

HD 革命 /WinProtector の 使用開始にあたって

ここでは、HD 革命 /WinProtector Ver.4 をお使いいただける動作環境、インストール方法、注意事項や制限事項などについて説明しています。

HD 革命 /WinProtector をご利用いただけるシステム環境

HD 革命 /WinProtector Ver.4（以下「HD 革命 /WinProtector」）をご利用いただくためには、次のコンピュータハードウェアおよびオペレーティングシステムが必要です。

コンピューターシステム環境

オペレーティングシステム (いずれも日本語版)	Windows 7 (32ビット版 / 64ビット版・SP0～SP1) Windows Vista (32ビット版・SP2以降) Windows XP (32ビット版・SP3以降) ※ Windows Vista/XP の 64bit 版には対応していません。 ※ サーバー系のオペレーティングシステムには対応していません。 ※ アドミニストレーター権限 (管理者権限) が必要です。
コンピューター	上記のオペレーティングシステムが稼働するコンピューター (PC/AT 互換機のみ) ※ Macintosh (Mac) には対応していません。
メモリー	Windows 7 (64bit) : 2GB 以上 Windows 7/Vista (いずれも 32ビット版) : 1GB 以上 Windows XP (32ビット版) : 512MB 以上 ※ メモリー上に「一時ファイル」を設定する場合、保護を行うためのメモリーとは別に、インデックス用としてドライブのサイズ 10GB につき、20.625MB のメモリー容量が必要です。
CD/DVD ドライブ	CD-ROM が読み込めるドライブ
ハードディスク SSD	50MB の空き容量 (本製品のインストール用として)
対応ファイルシステム	FAT32、NTFS (FAT16、exFAT には対応していません) ※ ダイナミックディスクの環境では使用できません。 ※ GPT ディスクには対応していません。

- ※ HD 革命 /WinProtector は、Symantec 社の「Norton GoBack」(「System Works」に含まれる「Norton GoBack」を含む) と共存できません。
- ※ OS 管理外のメモリーを使用するには、Intel955 以降のチップセット、または AMD Opteron/Athlon 64/Phenom など 8GB 以上のメモリーを利用できる CPU を搭載している必要があります。
- ※ コンピューターによっては OS 管理外のメモリーを使用するに当たり、BIOS の設定 (メモリーリマップ機能) を有効にする必要があります。BIOS によってはこの設定がない場合がありますので、コンピューター付属のマニュアル等でご確認ください。
- ※ 他の OS 管理外のメモリーを使用しているソフトウェアと同時に、OS 管理外のメモリーを使用することはできません。
- ※ お使いの環境によっては、HD 革命 /WinProtector を使用している間は、Windows の休止状態 / サスペンド、スタンバイ / スリープなどの省電力機能が正しく動作しない場合があります。また、OS 管理外のメモリーを使用する場合は、省電力機能は使用できません。

HD 革命 /WinProtector Ver.4 の製品エディション

HD 革命 /WinProtector Ver.4 には、3つのエディションがあります。「通常版」は個人ユーザー向けの製品で、「with Network Manager」と「Simple Edition」は、サーバー・クライアント環境での運用や、不特定多数のユーザーが使用するコンピューターでの運用を想定した法人向けの製品となっています。

・通常版

Windows の保護を行うための標準機能が搭載された製品となります。

・with Network Manager

通常版の機能に加え、別のコンピューターにインストールされたネットワークマネージャーからリモートで保護の開始・解除を行う機能が備わっています。

・Simple Edition

Windows の保護機能は通常版と同じになりますが、保護中に変更された内容は常に破棄され、ハードディスクや SSD に変更内容を適用することはできません。また、「除外フォルダーの設定」「アップデート連携」「継続保護の設定」「データトランスファー」機能は含まれません。

HD 革命 /WinProtector のインストール

旧バージョンの HD 革命 /WinProtector、または SSD 革命 /SpeedAdvance をインストールされている場合は、アンインストールしてからインストールを始めてください。

1

インストール開始

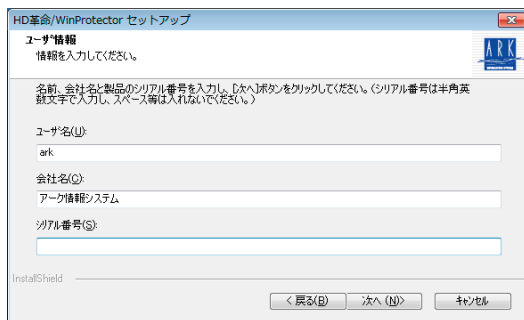
「インストール開始」をクリックします。



2

シリアル番号の入力

シリアル番号を入力します。



シリアル番号は、半角英字の太文字と半角数字で入力してください。ハイフン（-）も必要です。

(例) ABCD-E12-FGH345JK67

受け付けられないときは、全角文字や小文字になっていないかどうかを確認してください。

3

再起動

インストール後はコンピューターを再起動します。

アンインストールは、Windows の「コントロール パネル」を開き、「プログラムのアンインストール」、または「プログラムの追加と削除（アプリケーションの追加と削除）」から行ってください。

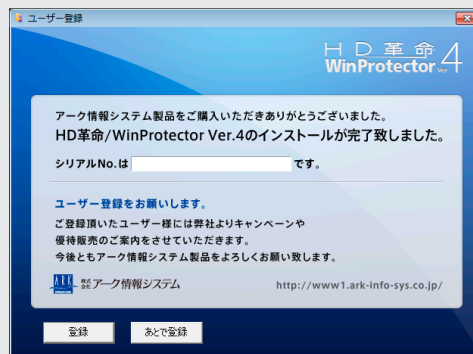
ARK ランチャーについて

インストール後、デスクトップに「Ark ランチャー」のアイコンが作成されます。Ark ランチャーから HD 革命 /WinProtector のメイン画面や各種ツールを起動することができます。



ユーザー登録画面の表示

Windows の スタートメニューで「HD 革命 WinProtector」→「ユーザー登録」を選択するとユーザー登録画面が表示されます。「登録」ボタンをクリックすると弊社 Web サイトのユーザー登録ページが開きます。



HD 革命 /WinProtector 使用時の注意事項・制限事項

安全にご利用いただくために

- ・お使いの環境やインストールされているソフトウェアによっては、正常に動作しないことがあります。このような場合は、常駐ソフトウェアの停止や周辺機器の取り外しを行うことで、動作するようになることがあります。
- ・Symantec 社の「Norton GoBack」(「SystemWorks」に含まれる「Norton GoBack」も含む) がインストールされている環境には、HD 革命 /WinProtector をインストールしないでください。HD 革命 /WinProtector をインストールする前に「Norton GoBack」をアンインストールしてください。

ハードディスク、ファイルシステムなどに関連して

●ファイルシステムについて

対応ファイルシステムは NTFS と FAT32 です。FAT16 では保護を行うことはできません。

●ダイナミックディスク、GPT ディスクについて

ダイナミックディスク、GPT ディスクの環境で保護を行うことはできません。

●ディスクデフラグについて

HD 革命 /WinProtector によってドライブの保護を行っている間は、「ディスク デフラグ」またはそれと同様の機能をもつディスク最適化ソフトウェアによる最適化は行わないでください。

●ハードディスクの断片化について

ドライブの断片化が激しいときは、保護を行うことができません。このようなときは、あらかじめ「ディスク デフラグ」などによって断片化を解消してください。

●OS の起動に関わるファイルが、保護されているドライブ以外にある場合の注意事項

マルチブートなどの環境で、OS の起動に関わるファイルが、保護されているドライブ以外にある場合は、そのファイルは保護されていないためにファイルの破損・変更があると OS の起動ができなくなります。

●保護中のドライブ操作について

HD 革命 /WinProtector でシステムを保護してい

る間は、「ディスクの管理」や「HD 革命 /Partition EX」、そのほかのツールでドライブの作成や削除などの操作を行わないでください。

システムの操作に関連して

●保護中の省電力機能について

お使いの環境によっては、HD 革命 /WinProtector でシステムを保護している間は、Windows の休止状態／サスペンド、スタンバイ／スリープが正しく動作しない場合があります。また、OS 管理外のメモリーを使用する場合は、省電力機能は使用できません。

●保護中にコンピューターをリセットした場合の動作について

ドライブを保護中にコンピューターをリセットした場合や、一時ファイルが限界値に達して再起動した場合、保護中に変更されたデータは破棄されてしまいます。重要なデータは定期的にバックアップを行うか、別のドライブやメディアに保存してください。

また、「OS 起動時に保護を開始する」にチェックを入れていないときは保護が解除された状態で Windows が再起動します。保護された状態で Windows を再起動したいときは「OS 起動時に保護を開始する」にチェックを入れてください (OS の起動時／終了時の設定は 2-6 ページ参照)。

●「現在の状態をシステムに適用後、保護を継続する」オプションを使用する場合の注意事項

他のアプリケーションから直接 Windows のシャットダウン／再起動が行われると、「終了ダイアログ」は表示されません。詳細設定オプションの「リミット時の設定」で、「現在の状態をシステムに適用後、保護を継続する」のオプションを選択している場合、変更が適用されずにシャットダウン／再起動が行われるため、書き込まれた内容に不整合が起こり、OS やアプリケーションの動作に支障が出る場合があります。このオプションを選択している場合は、他のアプリケーションでシャットダウン／再起動を行わず、Windows によるシャットダウン／再起動を行ってください。

●「一時ファイル」と「インデックス」

HD 革命 /WinProtector は、ドライブへの書き込みを保存するための「一時ファイル」をメモリーにも作成できます。また、それとは別に、どのセクタが使用されたかを記録するための「インデックス」も同様にメモリー上にも作成できます。「インデックス」は、ドライブのサイズに応じて必要なサイズが異なり、10GB につき、20.625MB のメモリー容量が必要です。

そのため、メモリーを使用する設定にして保護を行うには、「一時ファイル」＋「インデックス」のメモリー容量が必要となります。ドライブのサイズが大きくなるほど、「インデックス」の作成に必要なメモリーも大きくなるため、メモリーサイズとドライブのサイズによっては保護を行うことができません。

「メモリーが足りません」と表示される場合は、ドライブのサイズを小さくするか、ハードディスクに設定するようにしてください。

● OS 管理外メモリーについて

32 ビット版の Windows では、OS の制限により 3GB (値は環境により前後します) のメモリーしか認識できません。3GB 以上のメモリーは OS 管理外のメモリーとなります。HD 革命 /WinProtector では、この OS 管理外メモリーも使用することができますが、以下の注意事項があります。

- ・ OS 管理外のメモリーを使用するには、Intel955 以降のチップセット、または AMD Opteron/Athlon 64/Phenom など 8GB 以上のメモリーを利用できる CPU を搭載している必要があります。
- ・ コンピューターによっては OS 管理外のメモリーを使用するに当たり、BIOS の設定 (メモリーリマップ機能) を有効にする必要があります。BIOS によってはこの設定がない場合がありますので、マニュアル等でご確認ください。
- ・ 他の OS 管理外のメモリーを使用しているソフトウェア (Memory 革命 /RAM Drive など) と同時に、OS 管理外のメモリーを使用することはできません。
- ・ OS 管理外のメモリーを使用する場合は、休止状態 / サスペンドなどの省電力機能は使用できません。

● Windows 起動時のメモリー不足について

Windows の起動時に保護を開始する設定にし、かつ保護中の変更内容をドライブに適用する場合、変更した内容 (アプリケーションのインストールやアッ

プデートなど) の影響で Windows が必要とするメモリー容量が増えると、Windows がメモリー不足となり動作できなくなります。このとき、解除セクターを表示しないようにしていると、Windows 起動時に保護を解除できないため、Windows が起動できなくなる可能性があります。

変更をシステムに適用する設定にしている場合は、設定する一時ファイルのサイズには余裕を持たせ、「その他の設定」(2-10 ページ) で「解除セクターを表示する」のチェックをはずさないようにしてください。

除外フォルダー設定時の注意事項

除外フォルダーを設定する場合、「保護ドライブへの全ての書き込みを一時ファイルに書き込む」のオプションがオンになります。

そのため、除外フォルダーであってもデータを保存すると保護ドライブへの書き込みが行われたことになり、その分一時ファイルの使用容量が増加します。

ネットワークマネージャー使用時の注意事項

- ・ 「HD 革命 /WinProtector」と「ネットワークマネージャー」は同時にインストールできません。
- ・ 「ネットワークマネージャー」機能を使用する場合は、ファイアウォールの例外処理を行っています。この例外処理は「HD 革命 /WinProtector」および「ネットワークマネージャー」のインストール時に行われます。そのため、後からセキュリティソフトウェアがインストールされた場合、例外処理が行われていないためにリモートでの保護の開始、解除ができません。「HD 革命 /WinProtector」または「ネットワークマネージャー」を一度アンインストールし、再度インストールしてください。

革命シリーズとの共存について

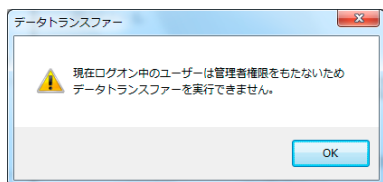
SSD 革命 /SpeedAdvance と同時使用はできません。

HD 革命 /WinProtector で保護中は、他の革命シリーズでのバックアップやコピーを行うことができません。また、すべての機能が使用できない場合があります。

データトランスファー使用時の注意事項・制限事項

データトランスファーを実行できるユーザー権限

データトランスファーでデータを移行するには管理者権限が必要です。ユーザー権限では次のメッセージが表示され、実行することはできません。



マルチユーザーのデータ移行

現在ログオンしているユーザーアカウント（「コンピューターの管理者」を含む）では、別のユーザーアカウントのデータを移行することはできません。そのため、1台のコンピューターに複数ユーザーアカウントがあり、それぞれに移行したいデータが存在する場合は、各ユーザーアカウントごとにログオンし、データ移行を行う必要があります。

データトランスファーの各画面のタイトルバーには、データ移行を行うログオンユーザー名が表示されるので確認することができます。



Windows アップデート中の移行

Windows アップデート中は、Windows が使用

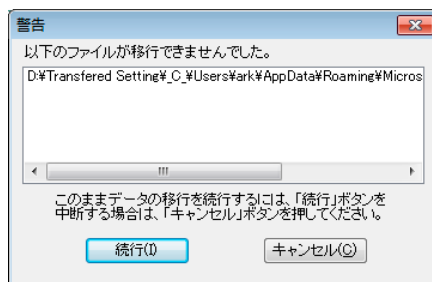
中のデータがあるため、データを移行することができません。アップデートが終了してからデータトランスファーでデータを移行してください。

スタートメニューが残る現象

データトランスファーでスタートメニューを移行した後、ドライブを保護した状態でアプリケーションプログラムをインストール後、保護解除時に変更内容をドライブに適用しないで再起動を行うと、インストールしたアプリケーションによって新しく作成されたスタートメニューだけが残ってしまうことがあります。保護解除時に変更内容をシステムに適用するか、再起動をする前にアンインストールを行ってください。

ファイルを使用中のときの移行

データトランスファーでは、ファイルを使用中のときはそのファイルを移行することができません。移行できないときは次の画面が開きます。



特に、Windows の自動更新ウィザードが常駐していると移行できないファイルがあります。「続行」をクリックして、ほかの移行可能なファイルを移行してください。

ファイル名、フォルダー名

ファイル名やフォルダー名に英語以外の外国語の文字や外字エディタにより作成した文字が含まれて

いる場合、そのファイル、フォルダーはデータトランスファーでは移行できないことがあります。

アプリケーション設定の移行

データトランスファーで移行できるアプリケーションプログラムの設定ファイルなどは、次のフォルダーの下に保存されているものに限られます。

- ・ Windows 7/Vista の場合（システムドライブが C: のとき）

C:¥users¥（ユーザー名）¥AppData¥Roaming

- ・ Windows XP の場合（同）

C:¥Documents and Settings¥（ユーザー名）
¥Application Data

このフォルダー以外のフォルダーにデータを保存するアプリケーションプログラムのデータは移行することはできません。

ただし、アプリケーションプログラムによっては、このフォルダー以外にも独自の設定をもっているものがあります。

このようなアプリケーションプログラムでは、データを移行することができない場合や、アプリケーション側で設定を変更しないと使用できないものがあります。

データの移行先ドライブについて

データ移行先のドライブは、フォーマットや消去をしないようにしてください。また、移行先のドライブに作成されるフォルダー（* : ¥Transferred Setting（* は移行先のドライブ文字））には移行されたデータが保存されていますので、削除しないでください。

移行時のディスクの空き容量

データトランスファーでデータを移行する場合、移行するデータサイズが移行先ドライブの空き容量より大きい場合は、データを移行することはできません。移行先ドライブの空き容量を増やすか、他のドライブを選択してください。

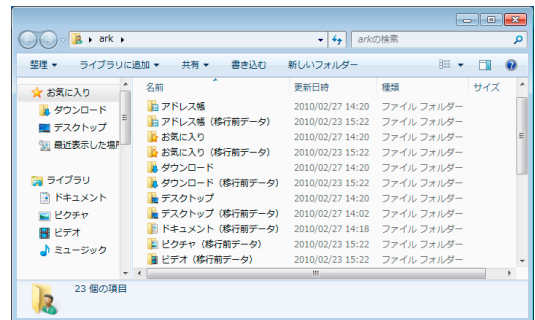
また、元のドライブに戻すときも同様に、移行す

るデータサイズがドライブの空き容量より大きい場合は、データを移行する（元のドライブに戻す）ことはできません。

例えば、「メールデータ」や「ドキュメント」を移行した後に、そのデータサイズが元のドライブの空き容量より大きくなってしまうと、元のドライブに戻すことができません。

移行前のデータが残ることについて

Windows 7/Vista の環境でデータトランスファーによりデータを移行すると、次の画面のように移行前と移行先（* : ¥Transferred Setting）のフォルダー名が表示されます。ここで、「（移行前データ）」と表示されているフォルダーは、データトランスファーで移行する前のフォルダーです。



保護中に「（移行前データ）」と表示されているフォルダーにデータを保存しても、保護を解除するとデータは破棄されます。

保護中は、「（移行前データ）」と表示されたフォルダーにデータを保存しないようにしてください。

保護中のドライブへのデータ移行について

データトランスファーでデータを移動するドライブが、HD 革命 /WinProtector で保護するドライブに設定されている場合、変更を適用せずに再起動 / シャットダウンを行うとデータが破棄されてしまいます。移行先のドライブと保護するドライブの設定をよく確認してからデータを移行するようにしてください。

第2章

HD 革命 /WinProtector を使用する

ここでは、HD 革命 /WinProtector Ver.4 を使用して、ドライブの保護、保護の解除、オプションの設定などを行う方法について説明しています。

HD 革命 /WinProtector の基本機能

HD 革命 /WinProtector の基本機能について説明します。

HD 革命 /WinProtector の基本機能

HD 革命 /WinProtector は、Windows 使用時にドライブへの書き込みが行われないように制限することにより、ドライブの保護を行うソフトウェアです。

通常ならドライブへ書き込まれるデータは、別ドライブやコンピュータの物理メモリー上に作成した領域（HD 革命 /WinProtector では「一時ファイル」といいます）に書き込まれます。これによりドライブが保護されます。

ドライブの保護を開始すると、ドライブへの書き込みは HD 革命 /WinProtector のドライバがそれをすべて“横取り”して一時ファイルに書き込みます。見た目には何も変化はありませんが、実際には HD 革命 /WinProtector が管理する一時ファイルとの間で書き込み、読み込みが行われているため、ドライブの内容は一切変更されません。

コンピュータを再起動することで一時ファイルに書き込まれた内容は破棄されますので、変更された設定やデータなどを簡単に元の状態に戻すことができます。一時ファイルをすべてメモリーに割り当

てれば、書き込まれたデータは完全に消去されますので、よりセキュアな環境を構築できます。

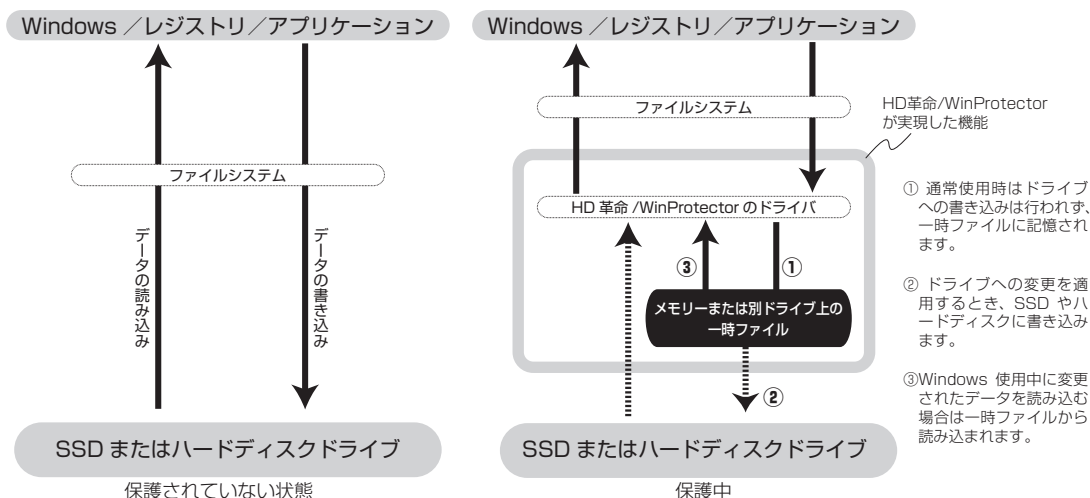
なお、一時ファイルに書き込まれた内容は、オプション設定で変更を実際のドライブに適用する（反映する）こともできますので、利用環境や用途に応じて使い分けることができます。

保護中の動作

下の図は、HD 革命 /WinProtector による保護中の動作を表したものです。

保護中は、Windows やアプリケーションから SSD、ハードディスクへの書き込みが行われても、HD 革命 /WinProtector がフィルターの役目を果たし、書き込みを制限します。このときにデータを書き込む場所が一時ファイルとなります。

元から SSD またはハードディスク上にあるデータはそのまま読み込まれますが、変更されたデータは一時ファイルから読み込まれることとなります。一時ファイルの設定する場所はメモリーとハードディスクが選択でき、その両方を使用することもできます。



HD 革命 /WinProtector による保護の動作図

ドライブの保護

ドライブの保護を行う手順を説明します。

1 「ドライブの保護／保護の解除」を選択

Ark ランチャーで「コンピューターの保護」→「ドライブの保護／保護の解除」を選択します。



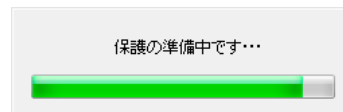
2 「開始」を選択

「開始」をクリックします。



3 保護の準備

保護を開始する前に準備中のメッセージが表示されます。環境によっては開始までに時間がかかります。



4 ドライブの保護

保護中は、メインウィンドウの状態で「保護されています。」と表示されます。



ドライブの保護の解除

ドライブの保護を解除する手順を説明します。

1 「ドライブの保護／保護の解除」を選択

Ark ランチャーで「コンピューターの保護」→「ドライブの保護／保護の解除」を選択します。



2 「解除」を選択

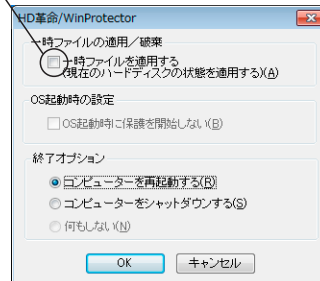
「解除」をクリックします。



3 終了ダイアログで設定

終了ダイアログ（詳細は 2-6 ページ）で、保護中にドライブに書き込まれた内容を適用するかどうか、また、その後の動作を選択します。

変更内容を適用する場合はチェックを入れます。

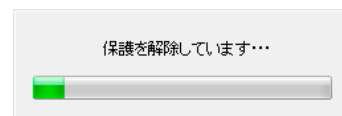


Point

終了ダイアログは、保護中に Windows のシャットダウン・再起動を行う場合にも表示されます。「詳細設定」オプションで表示しないようにすることもできます。

4 保護の解除

保護を解除中は次のメッセージが表示されます。環境によっては解除までに時間がかかります。



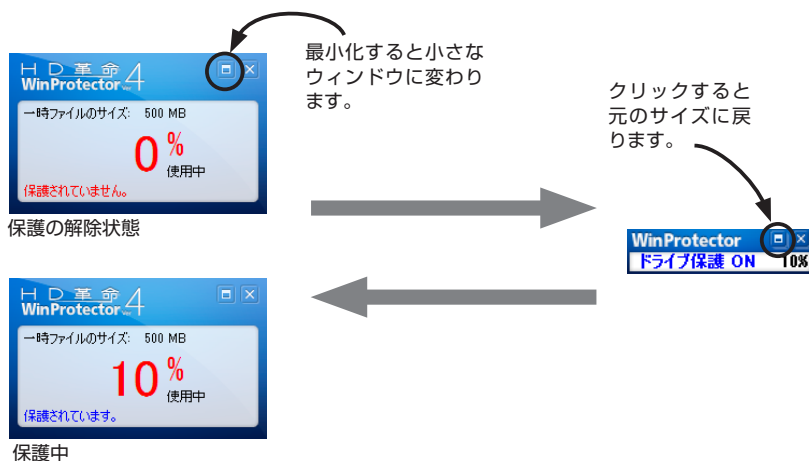
保護が解除されると、メインウィンドウの状態では「保護されていません。」と表示されます。



モニターウィンドウと一時ファイル容量

HD 革命 /WinProtector が起動するとモニターウィンドウが表示され（「ウィンドウの設定」（2-9 ページ）で非表示に設定することも可能）ます。

モニターウィンドウには、保護中かどうかと、保護中のときは一時ファイルの全体容量と使用済み容量（%）が表示されます。



HD 革命 /WinProtector による保護状態にて Windows を使用し続けると、一時ファイルの使用済み容量（%）が増加します。

一時ファイルの使用済み容量が規定値に達すると、コンピューターはシャットダウン／再起動します（「リミット時の動作」設定は 2-9 ページ参照）。

一時ファイルの使用済み容量が 100% になると、強制的にコンピューターが再起動します。

Point

一時ファイルの使用済み容量の増加について

一時ファイルの使用済み容量は、ドライブに書き込みが行われることで増加します。そのため、システムユーティリティやアンチウイルスソフトなどによりドライブに定期的な書き込みが行われると、一時ファイルの使用容量は通常の場合よりも早く増加することになります。また、Windows の復元ポイントの自動作成や、自動更新による書き込みでも一時ファイルの使用量は増加します。停止させても問題がないソフトウェアや機能を停止することで、一時ファイルの使用済み容量の増加を抑えることができます。

解除セクターと終了ダイアログ

HD 革命 /WinProtector では、Windows の起動と終了時に保護の解除・設定をするセクターとダイアログが表示されます。セクターとダイアログは「詳細設定」オプションで表示しないようにすることもできます。

解除セクター

● OS 起動時から保護を開始する場合

Windows の起動時に、保護を解除するセクターが表示されます。カウントされている間に「ESC」キーを押すと保護を解除することができます。

```
welcome to winprotector ver.4.0  
Copyright (C) 2011 ARK Information Systems Inc.All rights reserved.  
  
Press [Esc] key to cancel protection ,  
Press another key to start protection ... 6
```

保護解除用のパスワードを設定している場合はパスワードの入力を求められます。ここで入力を3回間違えると入力が中止され、保護された状態で Windows が起動します。

```
Enter password, press [Enter] to confirm :
```

● 継続保護を行う（リアルモードから保護を開始する）場合

オプションの「その他の設定」で「シャットダウン／再起動時に一時ファイルの内容を継続する」を選択している場合は、OS 起動時からの保護とは異なるメッセージのセクターが表示されます。

カウントされている間に「ESC」キーを押すと本当に保護を解除するかの確認がもう一度あり、「Y」キーを押すと保護を解除することができます。

```
Press any key to start protection (Press "ESC" for cancel) 6_
```

保護解除用のパスワードを設定している場合はパスワードの入力を求められます。ここで正しいパスワードを入力しない場合は保護を解除して Windows を起動することができません。

```
Enter Password, press "Enter" to confirm : _  
Press "ESC" to start protection.
```

※「ESC」キーを押すと保護を解除せずに Windows が起動します。

Point

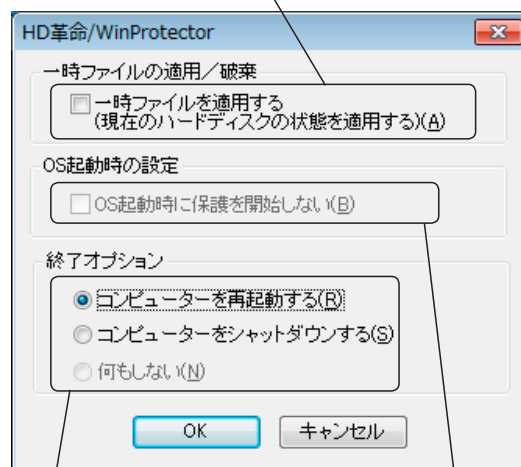
オプションの「その他の設定」で「コンピューター起動時／終了時の設定」を「リアルモードから保護を開始する」にしている場合は、こちらのメッセージが表示されます。

終了ダイアログ

Windows のシャットダウン／再起動時に表示される終了ダイアログは、コンピューターを再起動、またはシャットダウンしようとしたときに表示されます（ログオフでは表示されません）。

ここでは、変更の適用と次回起動時の動作を選択します。

保護を開始してから変更された内容をドライブに書き込みます。2-9 ページの「リミット時の動作」の設定で「現在の状態をドライブに適用後、保護を継続する」が選択されている場合はチェックが入った状態になり、必ず変更が適用されます。



終了時の動作を選択します。「何もしない」は変更内容をドライブに適用する場合のみ選択できます。

次回の OS 起動時に保護をしない場合にチェックを入れます。OS 起動時に保護を開始する設定になっていない場合は選択できません。

Point

「OS 起動時に保護を開始しない」オプションを選択すると、「詳細設定」オプションで「OS 起動時に保護を開始する」のオプションが、「起動時の保護なし」に設定されます。

OS 起動時から保護を行う場合は、「詳細設定」オプションの「その他の設定」で「OS 起動時に保護を開始する」に設定しなおしてください。

オプションの設定

「詳細設定」オプションにより、一時ファイルやアラームなどの設定を変更することができます。

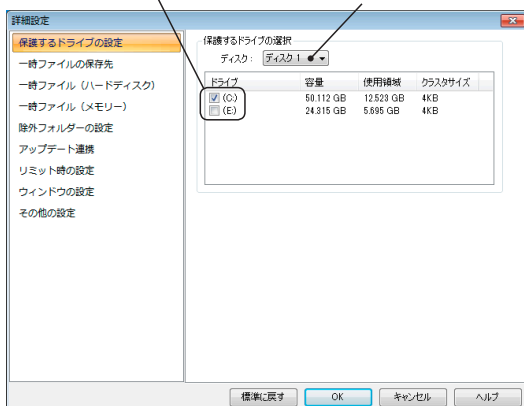
このオプション設定の変更は、保護を解除した状態で行います。パスワードを設定している場合は、詳細設定画面を表示するためにパスワードの入力が必要です。

「simple Edition」には、「除外フォルダーの設定」「アップデート連携」機能はありません。

保護するドライブ

保護するドライブにチェックします。

保護するディスクを選択します。



Point

一時ファイルはクラスタサイズに比例して消費量が大きくなります。
つまり、同じファイルをクラスタサイズが異なるドライブに書き込んだ場合、4KB よりも 8KB のほうが一時ファイルの消費量は 2 倍となります。
また、複数のドライブが選択されている場合、一番大きいクラスタサイズが使用されるため、保護するドライブに FAT32 と NTFS が混在するような環境では、NTFS だけの場合に比べて一時ファイルの消費量は大きくなります。

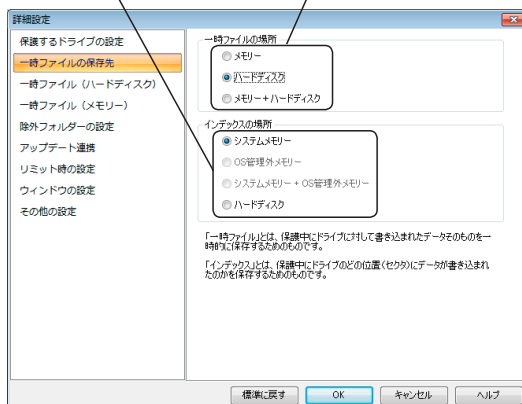


HD 革命 /WinProtector は、512 バイトエミュレーションを行っていない 4K セクター (4K ネイティブ) フォーマットのハードディスクでは使用できません。

一時ファイルの保存先

インデックスを作成する場所を選択します。64 ビット版の Windows では「OS 管理外メモリー」は選択できません (インデックスについては 1-5 ページの注意事項を参照)。

ドライブの保護に必要な一時ファイルを作成する場所を選択します。



Point

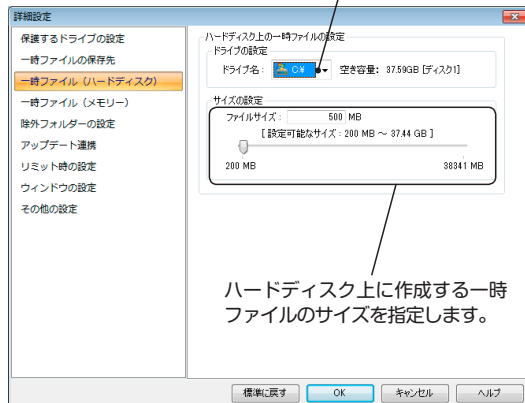
インデックスには、保護するドライブのサイズ 10GB につき、20.625MB の容量が必要です。保護するドライブのサイズが大きくなるほど、必要な容量が大きくなります。
一時ファイルとインデックスの両方をメモリーに設定すると、より多くのメモリー容量が必要となるため、環境によっては保護を行うことができません。メモリーが不足する場合は、ハードディスクに設定してください。



OS 管理外メモリーを使用する場合の注意事項は、1-5 ページを参照してください。

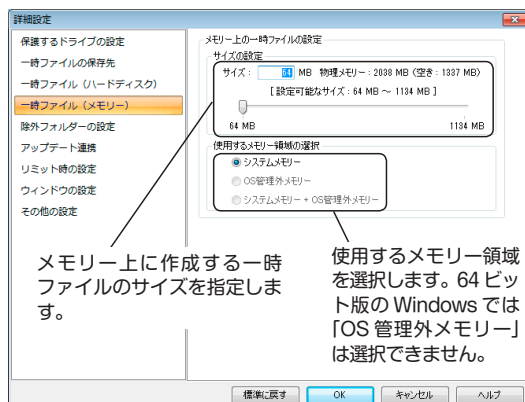
一時ファイル（ハードディスク）

一時ファイルの保存先ドライブを指定します。



ハードディスク上に作成する一時ファイルのサイズを指定します。

一時ファイル（メモリー）



メモリー上に作成する一時ファイルのサイズを指定します。

使用するメモリー領域を選択します。64ビット版のWindowsでは「OS管理外メモリー」は選択できません。

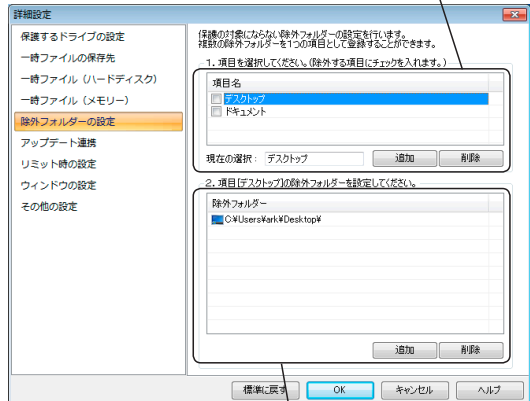


一時ファイルのサイズを大きくしても、実際に使用できるメモリーが不足している場合、保護を行うことはできません。また、システムメモリーを使用する場合、サイズを大きくするとWindowsが使用できるメモリー容量が少なくなります。保護を行うことができないときや動作が遅くなる場合は、サイズを小さくするかハードディスクのみを使用するようにしてください。

OS管理外メモリーを使用する場合の注意事項は1-5ページを参照してください。

除外フォルダーの設定

保護中に除外する（保護しない）項目を選択します。「追加」をクリックすると新しく項目を作成できます。



上で選択した「項目名」で設定されている保護しないフォルダーが表示されます。新しく項目を作成した場合は、「追加」をクリックしてフォルダーを追加します。

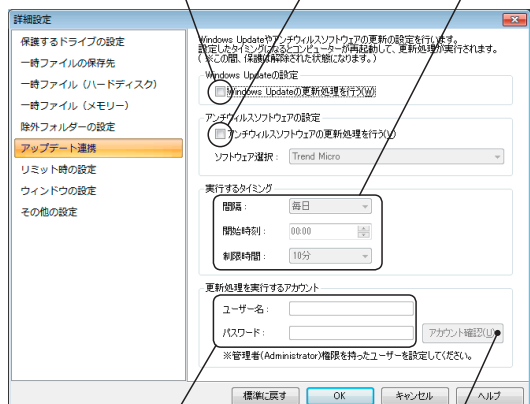
※除外フォルダーと保護ドライブ（フォルダー）間のファイル移動・上書きには注意が必要です。2-12ページを参照してください。

アップデート連携

アンチウイルスソフトの更新を行うかどうかを選択します。対象のアンチウイルスソフトがインストールされていない場合は選択できません。

Windows Updateを行うかどうかを選択します。

指定した時間に更新が開始します。

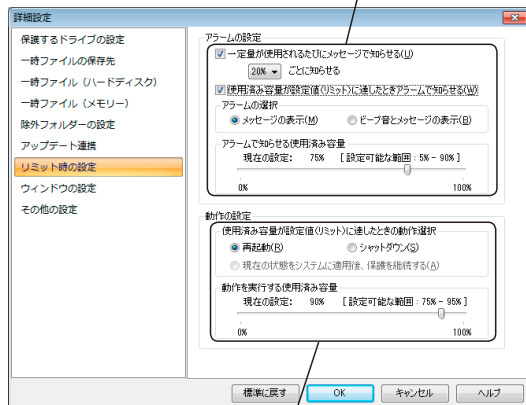


Windows Updateやアンチウイルスソフトによりコンピュータの再起動が行われた場合、自動的にログオンするためのユーザー名とパスワードを入力します。

クリックすることで、入力した内容が有効かどうかを確認できます。

リミット時の動作

一時ファイルが何%まで使用されたときに警告を出すかどうかを設定します。

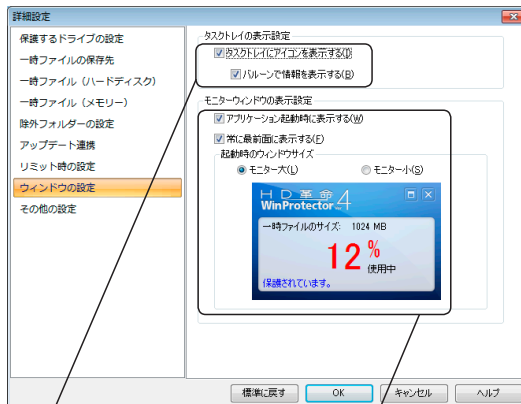


上記の警告とは別に、一時ファイルが何%まで使用されたときに選択した動作をさせるかを設定します。ドライブに適用する場合は一時的に保護を解除して一時ファイルに保存された内容をドライブに書き込み、その後再度保護を行います。「Simple Edition」には、「現在の状態をシステムに適用後、保護を継続する」機能はありません。



一時ファイルが 100% になると、保護を継続できなくなります。一時ファイルが 100% になりコンピューターが再起動（シャットダウン）すると、一時ファイルの変更内容が破棄されます。次回起動時は、前回保護を開始した時の状態となります。保護中は、必要な（消えては困る）データは保護するドライブ以外に保存してください。

ウィンドウの設定



タスクトレイのアイコンの表示方法を設定します。

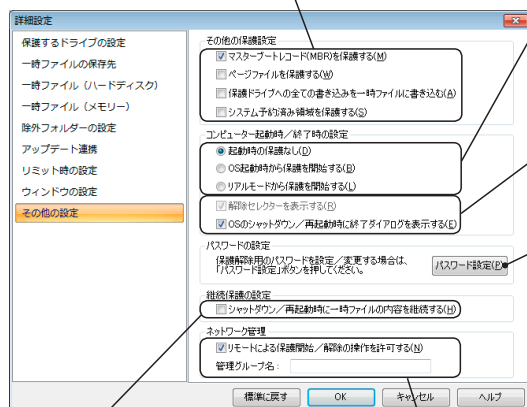
モニターウィンドウの表示方法を設定します。

Point

オプションの中には同時に選択できない機能があります。この場合は、オプションを設定した際にメッセージが表示され、同時に使用できない機能の設定が自動的に変更されます。

その他の設定

保護する対象を選択します。「ページファイルを保護する」と「保護ドライブへの全ての書き込みを一時ファイルに書き込む」を選択した場合、一時ファイルの使用容量が保護しないときよりも増加します。

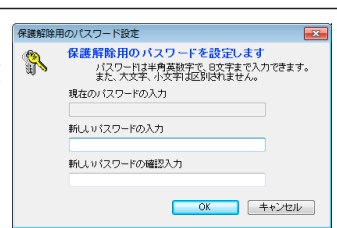


保護を行うタイミングを設定します。

- ・起動時の保護なし：
起動時の保護は行われません。
- ・OS 起動時から保護を開始する：
Windows の起動時から保護を行います。
- ・リアルモードから保護を開始する：
コンピュータの起動時から保護を行います。

保護を解除、設定するためのセレクト、ダイアログを表示するかどうかを設定します (2-6 ページ)。

保護を解除するためのパスワードを設定します (半角英数 8 文字まで)。



再起動後も一時ファイルを破棄せずに継続して使用します。これにより、インストール後に再起動を行うようなアプリケーションでも、変更を適用することなく継続して使用できるようになります。
「Simple Edition」にはこの機能はありません。

別のコンピュータにインストールされているネットワークマネージャーからリモートでの操作を許可するかどうかを設定します (Iwith Network Manager) 版のみ)。



- ・解除セレクトを表示しないようにすると、Windows の起動中に保護をキャンセルすることができません。起動中にアプリケーションの競合が生じた場合などは、キャンセルができないと Windows が起動できなくなります。あらかじめ正常に起動できることを確認してから、チェックをはずすようにしてください。

Point

「保護ドライブへの全ての書き込みを一時ファイルへ書き込む」オプションについて

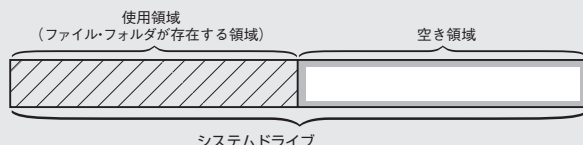
HD 革命 /WinProtector では、ドライブの保護中に使用領域 (保護を開始した時点でファイル・フォルダーが存在する領域) の変更が行われると、その変更は「一時ファイル」に書き込まれます。新規に作成するファイル・フォルダーにおいては通常「空き領域」に書き込まれますが、この「空き領域」を保護するかどうかで、一時ファイルの使用量に次のような違いがあります。

- ・オプションを使用しない (「空き領域」への書き込みはそのまま書き込む)

ドライブの「空き領域」への書き込みは、実際のファイル・フォルダーは「空き領域」に書き込み、ファイル・フォルダーの登録情報のみ一時ファイルに書き込みます。これにより、一時ファイルの使用量を節約することができます。

- ・オプションを使用する (「空き領域」への書き込みを「一時ファイル」に書き込む)

ドライブの「空き領域」も保護の対象となり、保護中のドライブへの書き込みは、空き領域への書き込みも含めすべて一時ファイルに書き込まれます。このオプションを使用すると、保護中のドライブへの書き込みは行わないので、一時ファイルの使用量は増加しますがセキュリティは向上します。

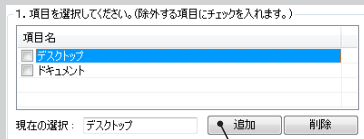


除外フォルダーを追加する方法 (「Simple Edition」は対応していません)

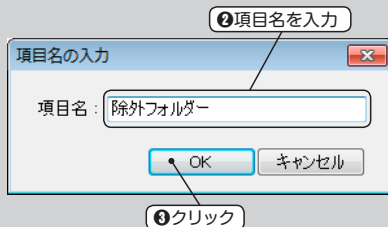
HD 革命 /WinProtector では、除外する（保護を行わない）フォルダーを設定することができます。

リストには初期設定で「デスクトップ」や「ドキュメント」が登録されていますが、任意のフォルダーを追加して除外することもできます。ここではその手順を説明します。

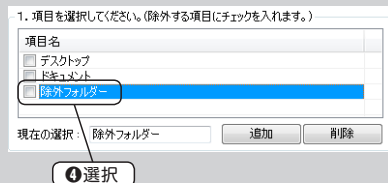
- 1** 「詳細設定」オプションの「除外フォルダーの設定」画面で、項目名一覧の下にある「追加」をクリックします。



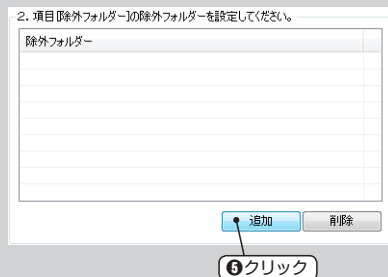
- 2** 項目名を入力します。



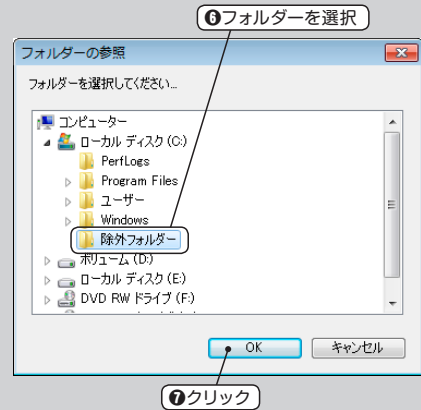
- 3** 追加された項目を選択します。



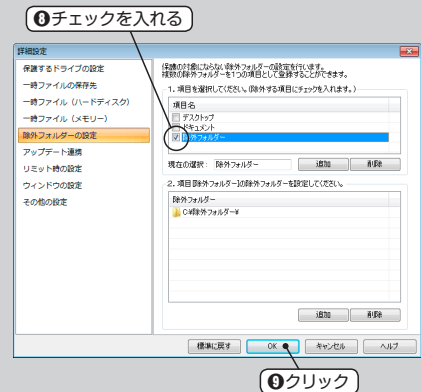
- 4** 「除外フォルダー」の下にある「追加」をクリックします。



- 5** フォルダーを選択します。



- 6** 除外するフォルダーの内容を確認し、チェックボックスにチェックを入れます。「OK」をクリックして設定画面を閉じます。



HD 革命 /WinProtector による保護中であっても、ここで設定したフォルダーは保護されずに変更が行われます。

除外フォルダー設定時のファイル移動について (「Simple Edition」は対応していません)

Windows のシャットダウン／再起動時に表示される終了ダイアログ (2-6 ページ) で「一時ファイルを適用する」にチェックを入れた場合、保護していたドライブに加えられた変更はそのまま適用されます。

チェックを入れない場合、保護していたドライブは保護を開始した時点の状態に戻ります。ただし例外として、除外フォルダーを設定し、除外フォルダーと保護対象ドライブ内の別のフォルダー (ここでは保護フォルダーといいます) 間でファイルの移動 (コピーではありません) を行くと、保護フォルダー内のファイルであっても移動や削除が行われます。

ファイルの移動や削除の状態はご使用の OS によって一部動作が異なります。とくに Windows Vista/XP において 3・4 の操作を行う場合、破線で囲んだ状態になりますのでご注意ください。

保護中のファイル移動操作内容

一時ファイルを適用しないで終了した後の状態

1 ファイルを移動 (上書きなし)



Windows 7/Vista/XP : いずれもファイルが移動します。



2 ファイルを移動 (上書きなし)



Windows 7/Vista/XP : いずれもファイルが移動します。



3 ファイルを移動して、同じ名前のファイルに上書き



Windows 7/ XP : ファイルが移動して上書きされます。



Windows Vista : 保護フォルダーは元に戻り、除外フォルダーは上書きされます。



4 ファイルを移動して、同じ名前のファイルに上書き



Windows 7 : ファイルが移動して上書きされます。



Windows Vista : 除外フォルダーからファイルがなくなり、保護フォルダーは元に戻ります (上書きされません)。



Windows XP : 保護フォルダー、除外フォルダーともにファイルは元に戻ります。

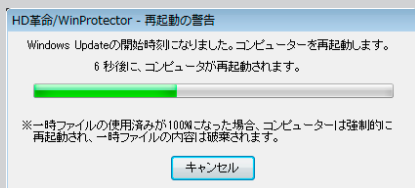


- Windows Vista の場合、除外フォルダーにあった上書きする元のファイルは削除されますので、とくにご注意ください。

Windows Update 実行時の動作について (「Simple Edition」は対応していません)

HD 革命 /WinProtector で保護を行っている間に Windows Update を行う設定にしている場合は、開始時刻になると自動的にコンピューターが再起動します。Windows Update 中は保護が解除された状態となり、何回かコンピューターの再起動が行われます。

- 1 Windows Update の開始時刻になると次のメッセージが表示され、コンピューターが再起動します。



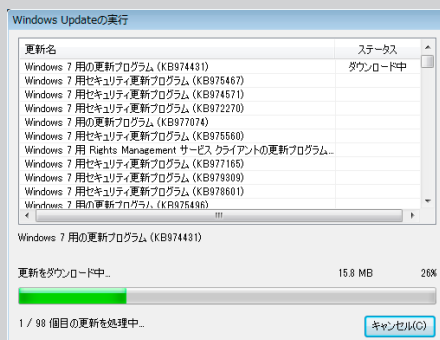
- 2 Windows Update が行われる場合、Windows の起動前に次のメッセージが表示されます。

Windows 7/Vista を使用している場合はこの前に「Reboot for windows update/Anti-virus software update...」と表示され、一度コンピューターの再起動が行われます。

Prepare for windows update ...

- 3 デスクトップ画面が表示された後に Windows Update が開始します。このとき、次の画面が表示され、Windows Update (ファイルのダウンロードとインストール) が行われます。

Windows Update が行われている間は Windows の操作はできません。「キャンセル」をクリックして Windows Update を途中で止めることもできます。



- 4 リストに表示された更新のインストールが終了すると、コンピューターが再起動します。このとき Windows の起動前に次のメッセージが表示され、起動途中に Windows Update が行われます。更新処理が終了するともう一度コンピューターが再起動します。

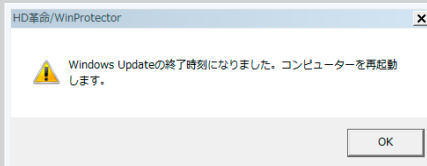
Config windows update ...
After the update is complete, the system will automatically restart ...

Point

更新する Windows Update の内容によっては、この画面は表示されません。



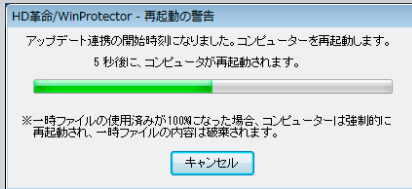
「Windows Update の設定」画面 (2-8 ページ) で設定した制限時間が経過すると、Windows Update の更新が全部終わっていない場合でも途中でキャンセルされ、コンピューターが再起動します。このときは下のメッセージが表示されますが、このメッセージは自動的に閉じます。Windows Update が途中でキャンセルされた場合でも、制限時間内にインストールされた更新は有効となりますので、同じ更新内容が重複してインストールされることはありません。次の開始時刻がきて Windows Update が開始すると、まだインストールされていない残りの更新のダウンロード、インストールが行われます。



アンチウイルスソフトウェアの更新動作について (「Simple Edition」は対応していません)

HD 革命 /WinProtector で保護を行っている間にアンチウイルスソフトウェアの更新を行う設定にしている場合は、開始時刻になると自動的にコンピューターが再起動します。更新中は保護が解除された状態となり、何回かコンピューターの再起動が行われます。

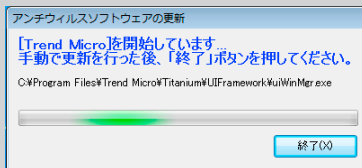
- 1 アンチウイルスソフトウェアの更新開始時刻になると次のメッセージが表示され、コンピューターが再起動します。



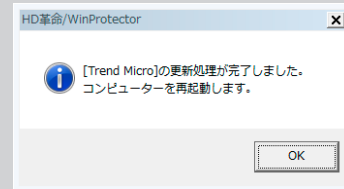
- 2 Windows の起動前に次のメッセージが表示されます。Windows 7/Vista を使用している場合は、この前に「Reboot for Windows update / Anti-virus software update...」のメッセージが表示され一度コンピューターの再起動が行われます。

Prepare for Anti-Virus Software Update...

- 3 デスクトップ画面が表示された後にアンチウイルスソフトウェアの更新が開始されます。このとき、次の画面が表示された後、アンチウイルスソフトウェアの操作画面が起動し更新が行われます。
この処理は時間がかかりますので、終了するまではそのまましばらくお待ちください。なお、「終了」をクリックして更新を止めることもできます。



- 4 更新処理が完了すると次のメッセージが表示されますが、このメッセージは自動的に閉じられコンピューターの再起動が行われます。



Point

「詳細設定」オプションの「アップデート連携」の画面で、Windows Update とアンチウイルスソフトウェアの両方を設定した場合は最初にアンチウイルスソフトウェアの更新が行われ、アンチウイルスソフトウェアの更新が完了後に Windows Update が行われます。

第3章

便利ツール

ここでは、HD 革命 /WinProtector Ver.4 をより便利にご利用いただくための各種ツールについて説明しています。

ComfortDisk

Windows には、パフォーマンスを向上させるために環境を最適化する機能があります。しかし、この機能が動作するとハードディスクへの書き込みが発生し、HD 革命 /WinProtector の一時ファイルを増加させる原因となります。

「ComfortDisk」は、Windows に付属している最適化機能のうち、ハードディスクや SSD への書き込みを行う機能の設定を変更するツールです。

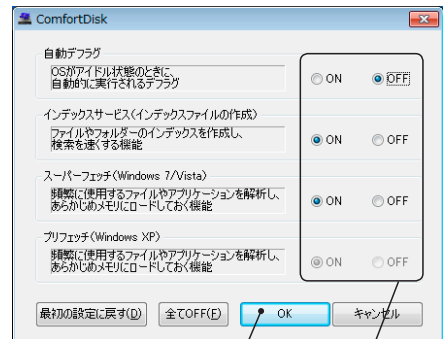
1 「ComfortDisk」を選択

Ark ランチャーで「便利ツール」→「ComfortDisk」を選択します。



2 設定の変更

各機能を有効にするか無効にするかを、ON / OFF により設定します。変更後はコンピューターの再起動が必要です。



- 各機能を OFF にするとハードディスク、SSD への書き込みは減少しますが、Windows のパフォーマンスは低下します。ON のほうが快適に使用できる場合もありますので、環境、用途に応じて設定を変更してください。

自動デフラグ

Windows は、何も操作がされていない状態（アイドル状態）のときに自動的にデフラグを実行しています。この自動デフラグの設定を変更します。

インデックスサービス

Windows は、ファイルやフォルダーのインデックスを作成し、このインデックスを参照することで高速な検索を可能としています。このインデックスを作成する機能の設定を変更します。

スーパーフェッチ (Windows 7/Vista)

頻繁に使用するファイルやアプリケーションを解析し、あらかじめメモリにロードしてパフォーマンスを向上させる機能です。Windows 7/Vista ではスーパーフェッチ (SuperFetch) といいます。

プリフェッチ (Windows XP)

スーパーフェッチとほぼ同じ機能です。Windows XP では、プリフェッチ (Prefetch) といいます。

データトランスファー (「Simple Edition」は対応していません)

HD 革命 /WinProtector によってドライブが保護されている間は、保護したドライブに保存したデータが実際に保存されているように見えますが、実際にはハードディスクまたはメモリーに書き込まれているだけとなっています。そのため、書き込まれた内容を「ドライブへ適用」せずに保護を解除すると、それらのデータは失われて保護前の状態に戻ります。

通常は「ドキュメント」、「メールデータ」、「お気に入り」などの保存先はシステムドライブ (C ドライブ) に設定されているため、HD 革命 /WinProtector で C ドライブを保護すると、これらに保存したデータを「ドライブへ適用」しない限りデータが失われることになります。

「データトランスファー」は、通常は C ドライブに設定されている「ドキュメント」などの保存先フォルダーを別ドライブに移行するためのツールです。例えば、データトランスファーで保存先を D ドライブに移行すると、「ドキュメント」などのデータの保存先フォルダーが D ドライブに変更されます。以後「ドキュメント」などに保存したデータは自動的に D ドライブに移行したフォルダーに保存されるようになり、ドライブの保護の解除時に「ドライブへ適用」をすることなく、それらのデータが保存されます。

簡単モード (初心者向け)

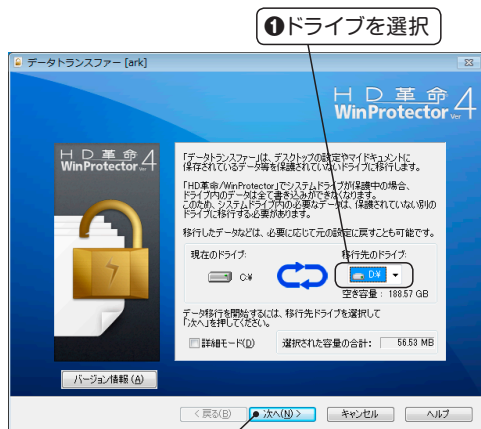
すべての設定を別ドライブに移行します (「ドキュメント」「メールデータ」など個別に設定する場合は詳細モード (次ページ) を使用します)。



- データトランスファーは保護を解除した状態で実行してください。

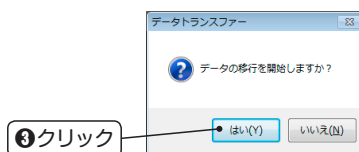
1 「データトランスファー」を選択

Ark ランチャーで「便利ツール」→「データトランスファー」を選択し、移行先ドライブを指定します。



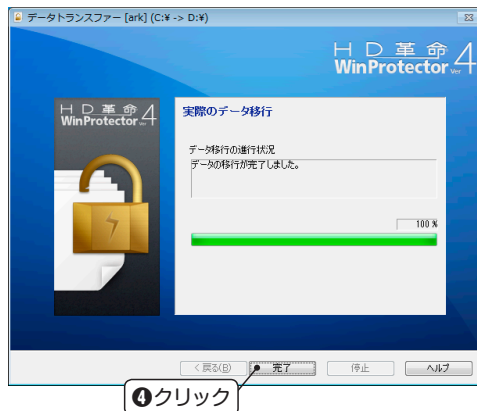
2 データ移行の確認

「はい」をクリックすると移行が始まります。

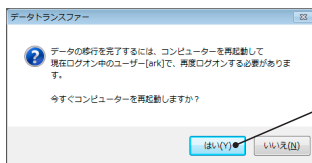


3 データ移行の完了

データの移行が完了します。



移行後はコンピューターの再起動が必要です。
再起動後、データを移行したユーザーでログイン
することで移行が完了します。



⑥クリックして再起動後、同じユーザーでログイン

詳細モード（上級者向け）

「ドキュメント」「メールデータ」など個別に設定して移行するモードです。

1 「データトランスファー」を選択

Ark ランチャーで「便利ツール」→「データトランスファー」を選択し、移行先ドライブを指定します。

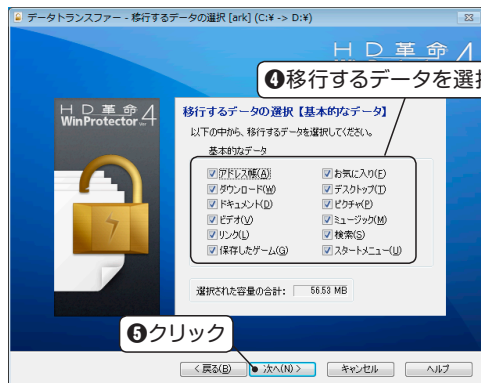


②チェックを入れる

③クリック

2 移行するデータの選択

一覧の中から移行するデータを選択します。



⑤クリック

メールデータを移行するときに選択します。



⑦クリック

ユーザーの設定を移行するときに選択します。

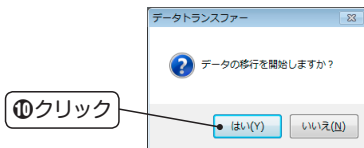


⑨クリック

⑧移行するデータを指定

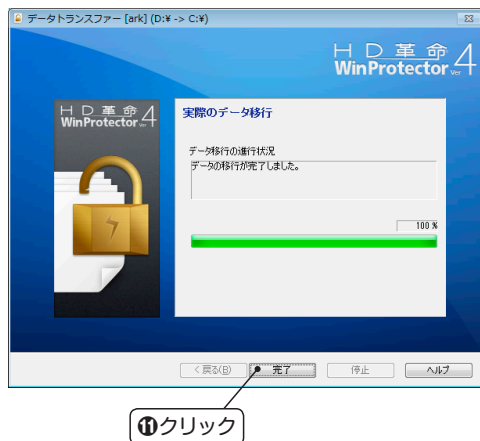
3 データ移行の確認

「はい」をクリックすると移行が始まります。

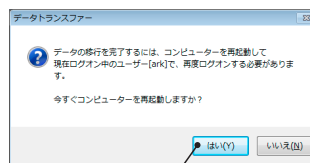


4 移行の完了

データの移行完了後、「完了」をクリックします。



再起動後、データを移行したユーザーでログオンすることで移行が完了します。



- データ移行先ドライブがHD 革命 /WinProtector で保護するドライブに設定されていないかどうかを確認してください。
- 保護したドライブへの変更を適用せずに再起動 / シャットダウンを行うと、変更されたデータが破棄されてしまいます (2-6 ページ参照)。

データトランスファーで移行した設定（データ）を元に戻す

「データトランスファー」で「ドキュメント」などを別ドライブに移行すると、保護解除の状態でも保存先フォルダーが別ドライブとなっています。通常の Windows 起動時と同様のシステムドライブ（C ドライブ）にするためには、データトランスファーによって設定（データ）を元に戻す必要があります。



- データトランスファーは保護を解除した状態で実行してください。

1 「データトランスファー」を選択

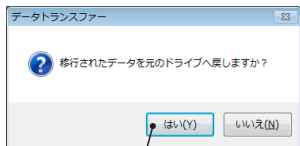
Ark ランチャーで「便利ツール」→「データトランスファー」を選択し、移行先になっていたドライブを選択します。

移行したデータを元に戻すときは、項目を選択することはできません（すべてを元に戻します）。



2 データ移行（復元）の確認

「はい」をクリックすると移行が始まります。

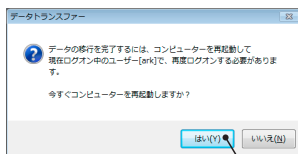


3 データ移行（復元）の完了

データの移行完了後、「完了」をクリックします。



再起動後、データを移行（復元）したユーザーでログインすることで移行が完了します。



4 クリックして再起動後、同じユーザーでログイン

4 ユーザーアカウント制御 (Windows 7/Vista)

Windows 7/Vista の場合はコンピュータの再起動後、最終処理を行うために「データトランスファー」が起動します。

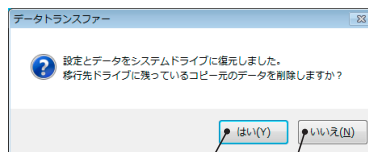
タスクバーにアイコンが表示されますので、このアイコンをクリックして「ユーザーアカウント制御」の画面で「はい」をクリックします。



5 点滅しているアイコンをクリック

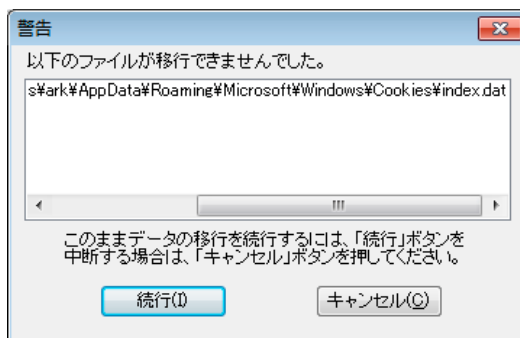
5 データの削除

この時点では、別ドライブに移行してあったデータは残っています (Transferred Setting フォルダ)。このデータを削除するか残しておくかを選択します。



6 フォルダー（データ）を削除するときをクリック

フォルダー（データ）は削除されず、移行してあった先に残ります。



ドライブ情報の取得

コンピュータに接続されているハードディスクに関する情報を取得し、表示することができます。

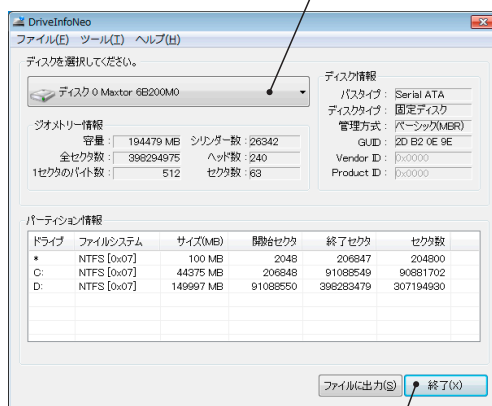
1 「ドライブ情報の取得」を選択

Ark ランチャーで「便利ツール」→「ドライブ情報の取得」を選択します。



2 ドライブ情報の取得

③情報を表示させたいディスクを選択



ドライブ情報を HTML ファイルに
書き出すときにクリック



この画面の「ツール」メニューには
Windows やパーティション情報を変更
する機能がありますが、誤った操作を行
うと Windows を起動できなくなります。
Windows やパーティションの状態に問題が
ないときには使用しないでください。

コンピューター情報の取得

コンピューターに関する情報を取得し、表示することができます。

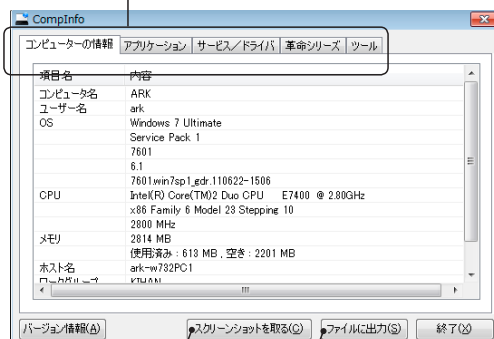
1 「コンピューター情報の取得」を選択

Ark ランチャーで「便利ツール」→「コンピューター情報の取得」を選択します。

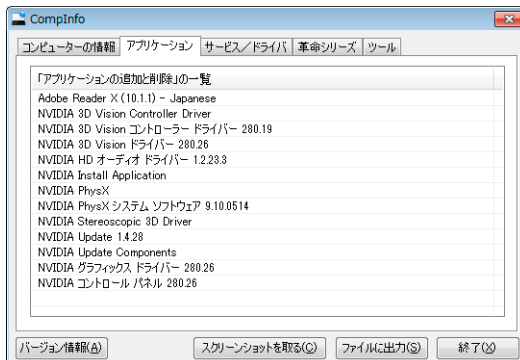


2 コンピューター情報の取得

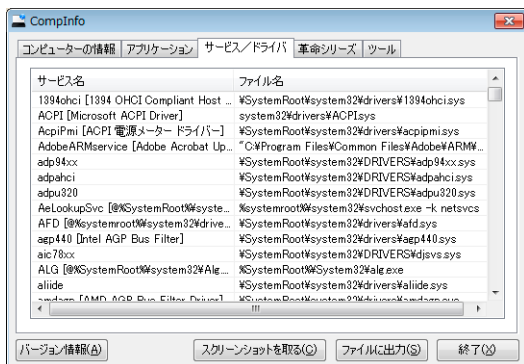
③各タブをクリックして、コンピューターの情報やインストールされているアプリケーションなどの情報を表示



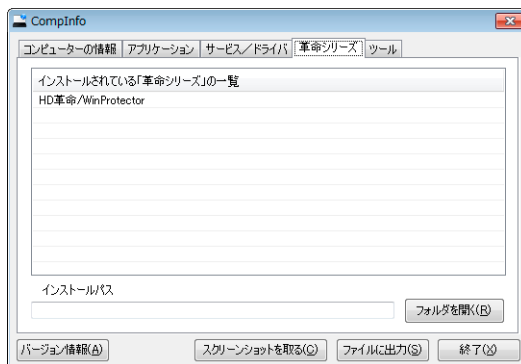
「コンピューターの情報」タブ



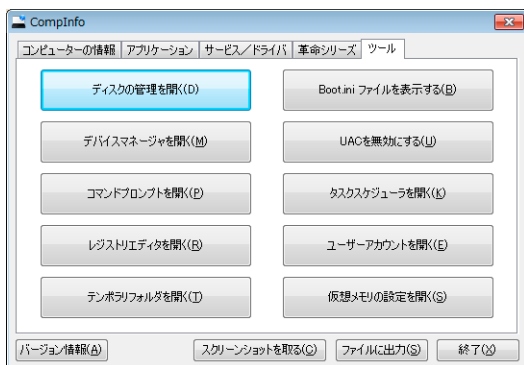
「アプリケーション」タブ



「サービス/ドライバ」タブ



「革命シリーズ」タブ



「ツール」タブ

Point

「ツール」タブで「ディスクの管理」「タスクスケジューラ」ほかの Windows の機能呼び出すことができます。

ネットワークマネージャー (「with NetworkManager」のみ)

ネットワークマネージャーは、ネットワークに接続された HD 革命 /WinProtector がインストールされているコンピューターを検索し、保護の開始・解除をリモートコントロールするツールです。

1 ネットワークマネージャーのインストール

製品 CD をドライブに挿入し、「NetworkManager」フォルダーの中にある「WPNetworkManagerSetup.exe」を実行します。

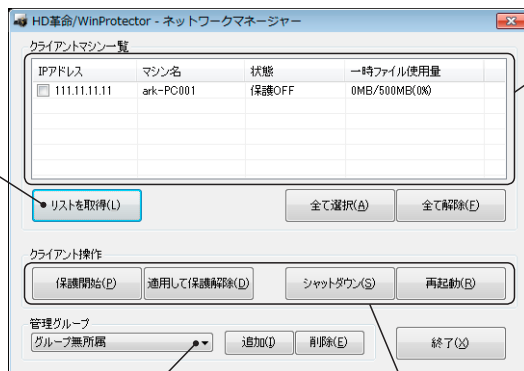


HD 革命 /WinProtector がインストールされているコンピューターには、ネットワークマネージャーをインストールできません。

2 ネットワークマネージャーのメイン画面

Windows のスタートメニューで「HD 革命 WinProtector 4」→「WinProtector ネットワークマネージャー」を選択するとメイン画面が表示されます。この画面でクライアントコンピューターの操作を行います。

HD 革命 /WinProtector がインストールされ、コントロール可能なコンピューターを検索して一覧に表示されます。



クライアントとして利用可能なコンピューターの状態が表示されます。

ここで選択した管理グループ名が設定されているクライアントのみリストに表示されます。
初期設定では管理グループ名は「グループ無所属」が1つだけなので、他のグループ名のクライアントを表示する場合は「追加」で管理グループ名を登録します。

一覧で選択したクライアントコンピューターの保護の開始、解除を行います。
変更を適用せずに保護を解除する場合、シャットダウンまたは再起動を行います。

Point

クライアントとなるコンピューターの管理グループ名は、HD 革命 /WinProtector の「その他の設定」画面 (2-10 ページ) で設定します。

付 録

用語の解説

ATAPI

IDE に CD/DVD など、ハードディスク以外の機器を接続するための規格。これにより、ハードディスクと同じように接続することが可能となっている。CD/DVD ドライブは、ATAPI 接続と呼ばれることが多い。

BIOS (Basic Input Output System)

バイオスと読み、コンピューターの電源を入れると一番最初に読み込まれるデバイスをコントロールするプログラム。OS は BIOS に命令を出しハードディスクなどのデバイスを制御する。

exFAT (Extended File Allocation Table)

主に USB メモリーなどのフラッシュメモリー向けのファイルシステムで、FAT32 の短所を補った拡張ファイルシステムとなっている。理論上の最大ボリュームサイズは 64ZB (ゼタバイト)。

FAT (File Allocation Table)

MS-DOS、Windows で使用されるファイルシステム。ファイルの保存情報が記録されている。FAT16 は最大 2GB までしか扱うことができない。FAT32 は最大 2TB (テラバイト) まで扱うことができるが、Windows では 32GB までしか作成できない。

GPT ディスク

ディスクの管理方式の 1 つで、「GUID パーティションテーブル」の頭文字をとって「GPT」と呼ぶ。最大 18EB (エクサバイト) までボリュームを作成でき、1 台のディスクに最大 128 個のパーティションを作成できる。従来のディスクは MBR (マスタートレーコード) ディスクと呼ぶ。

GUID

ディスクやパーティションを区別するために用いられる一意な識別子のこと。

HPA (Hidden Protected Area)

PARTIES と呼ばれる BIOS (ファームウェア) で保護された領域で、Windows のディスクの管理でもこの領域を参照することができない。IBM 製のコンピューターはこの領域にリカバリー用のデータが保存されている。

IDE

ハードディスクや CD/DVD を接続するための規格の一つ。1 本の IDE ケーブルで、マスター、スレーブとして 2 台の機器を接続することができる。拡張規格として ATA がある。

IEEE1394

高速なデータ転送が可能なシリアルインターフェース規格。PC だけでなく、デジタル機器に広く普及している。「FireWire」や「i.LINK」とも呼ばれる。

MS-DOS (Microsoft Disk Operating System)

Microsoft 社が開発したディスクオペレーティングシステム。DOS と省略されることがある。

NTFS (New Technology File System)

Windows NT から導入されたファイルシステム。セキュリティや信頼性において、FAT よりも優れている。

OS (Operating System)

コンピューターを動かすための基本ソフトウェア。ハードウェアの管理を行ったり動作させるためのインターフェースを提供する。

PC/AT 互換機

IBM 社が開発した PC を元に、他社が開発した同等の PC のこと。AT 互換機、PC 互換機、DOS/V 機と呼ばれることもある。現在広く普及している PC のうち、Macintosh 以外のほとんどは、PC/AT 互換機。

S.M.A.R.T.

Self-Monitoring, Analysis and Reporting Technology の略で、ハードディスクの障害の発見や故障の発生を予測するために、ハードディスクに搭載されている自己診断機能のこと。

S.M.A.R.T. の機能によって取得できる各属性値（読み込みエラーの発生率、スループットの値、温度など）と、あらかじめそのハードディスクで設定されている「しきい値」とを比較することで、故障の発生を予測したり、劣化の状態を知ることができる。現在製造されているハードディスクのほとんどに搭載されているが、古いハードディスクなど、S.M.A.R.T. の機能が搭載されていないものもある。

SSD (Solid State Drive)

記憶媒体としてフラッシュメモリを用いたドライブ。省電力、耐衝撃性の面からノート型コンピューターに適している。SLC (Single Level Cell) と、MLC (Multi Level Cell) の 2 種類がある。MLC は SLC に比べ低価格であるが、速度や信頼性の面で SLC に劣っている。書き換え可能回数は、SLC は 10 万回、MLC は 1 万回程度とされている。

USB (Universal Serial Bus)

キーボード、マウス、ハードディスクなどのさまざまな周辺機器を接続することができるインターフェースで、コンピューターの電源を入れたまま、機器の接続、取り外しが可能。

USB1.1、2.0、3.0 の規格がある。上位の規格は下位との互換性をもち、最大転送速度がより高速になっている。

USB ルートハブ

USB コントローラーチップ内部には一種のハブが存在し、USB の根本にあたるハブのため USB ルートハブと呼ばれる。デバイスマネージャで USB コントローラを見ると、いくつかの USB ルートハブが表示されていることが確認できる。

一般的に、コンピューター本体にある USB コネクタ（USB ポートともいう）は通常ルートハブである。しかし、最近のコンピューターでは USB コネクタが複数あり、その中のいくつかのコネクタは、USB

ルートハブから分岐したコネクタ（内蔵ハブによるコネクタ）の場合がある。キーボードやモニタにある USB コネクタも、内蔵ハブにより増設されたコネクタであることが多い。

Windows PE (Windows Preinstallation Environment)

通常の Windows から機能を省き、最小限のサービスを利用できるコンパクトなオペレーティングシステム。CD/DVD などから起動でき、Windows のインストールや、起動できなくなった Windows のトラブルシューティングや回復に利用される。Microsoft より無償ダウンロード配布されており、これをベースに自由にカスタマイズして使用することができる。

空き領域

パーティション中の使用されていない（ファイル・フォルダーが存在しない）部分のこと。

アクティブパーティション

OSを起動するように指定されているパーティション。

拡張子

ファイルの種類を区別するために、ファイル名の後に「.」を挟んでつけられる文字列のこと（例：.ISO .TXT）。

拡張領域と論理ドライブ

ハードディスクを分割したときの、基本ドライブ以外の領域を拡張領域という。この拡張区画の中に 1 個または複数の論理ドライブがつくられ、論理ドライブの 1 つ 1 つに D、E、F … とドライブ文字が割り当てられて使われることになる。

拡張領域のことを拡張パーティションと呼ぶこともある。

仮想ドライブ

実際には接続されていないが、Windows 上で本物のドライブと同じように認識されるドライブのこと。

起動コード（ブートコード）

コンピューターやシステムを起動するために最初に読み込まれるプログラムのこと。

基本ドライブ

コンピューターの起動用ドライブで、1つのハードディスクに4つまで作成することができる。特殊な場合を除きCドライブを指す。このドライブにWindowsがインストールされる。

基本パーティション、またはプライマリパーティションと呼ぶことがある。

クラスター

ハードディスクへのデータの記録はセクター単位で行われるが、Windowsでは複数のセクターからなるクラスターという単位でデータが管理され、データの読み書きがクラスター単位で行われる。

コンベンショナルメモリー

MS-DOSおよびアプリケーションが使用可能な640KBのメモリー。

シリアル ATA（SATA、SerialATA）

シリアルで転送するインターフェース規格。従来のATA規格はパラレル転送を行っており、ケーブルの形状が異なる。ATAより高速な転送を可能としている。

ジオメトリ

ハードディスクに関する情報（トラック数、セクター数、ヘッド数など）のこと。

使用領域

パーティションの中の、使用されている（ファイル・フォルダーが存在する）部分のこと。

ダイナミックディスク

Windows 2000以降で利用可能なディスク管理方法。ダイナミックディスクでは、「ボリューム」と呼ばれる単位でディスクの領域を管理する。ボリュームには、シンブル、スパン、ストライプ、ミラー、RAID-5が存在するが、ミラーとRAID-5はサーバ

一系Windowsのみサポートしている。

ディレクトリ

階層構造のファイル管理方式では、1つの階層をディレクトリと呼ぶ。

デバイス

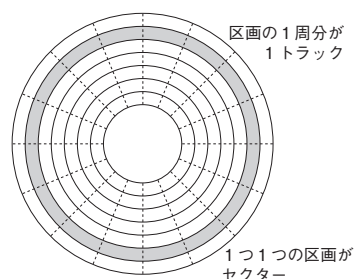
コンピューターに接続する周辺機器のこと。

同期

データを二重化し、常に同一性が保持される機能のこと。

トラックとセクター

ハードディスクの中では、回転する磁気を帯びた円盤に対してデータの書き込み・読み出しが行われている。データが記録される区画の最小単位をセクターといい、セクターの1周分をトラックという。



パーティション

ハードディスクをいくつかの領域に分割したときの区域のこと。物理的に1つのディスクを複数のディスクのように見せることができる。

パーティションテーブル

ハードディスクに存在する各パーティションに関する開始位置やサイズの情報を記録しておくテーブル。

ファイルシステム

ファイルを管理する方式。ハードディスク上のどこにファイルが保存されているかなどの情報を記録する。ファイルの参照は、ファイルシステムの情報をもとに行われている。

フォーマット

ハードディスクや DVD-RAM、MO などの記録メディアにデータを書き込むために一番最初に行う処理。ファイルシステムごとに決められた規則に従って行われる。

フラッシュメモリー

書き換え可能なメモリーのこと。電源を切ってもデータを保持することができる。USB メモリーや SSD、SDHC メディアカードもフラッシュメモリーを使用した記憶装置である。

ベーシックディスク

基本パーティション、拡張パーティション、論理ドライブで構成される従来のディスク管理方法を「ベーシックディスク」と呼ぶ。

ヘッド

データの読み込み・書き込みを行うために使われるディスクの中にある磁気ヘッドのこと。ハードディスクでは、複数のヘッドが存在する。

ヘッド数

ハードディスクのサイズや位置情報を計算する方法としてヘッド数という値を使用する。ヘッド数は、ほとんどのコンピューターでは 255 としているが、IBM などの一部のコンピューターでは 240 となっている。

ボリューム

ディスクの記憶単位で、ドライブ文字が割り当てられる。ダイナミックディスクでは、パーティションを「ボリューム」と呼ぶ。

ボリュームラベル

マイ コンピュータ画面でドライブアイコンに表示される、ディスクを識別するための名前。

マスターブートレコード

HDD の先頭領域にあるセクターのことで、MBR と略されることがある。パーティションテーブルやアクティブパーティションから起動用プログラムを読み込むためのマスターブートコードが記録されている。

マルチブート

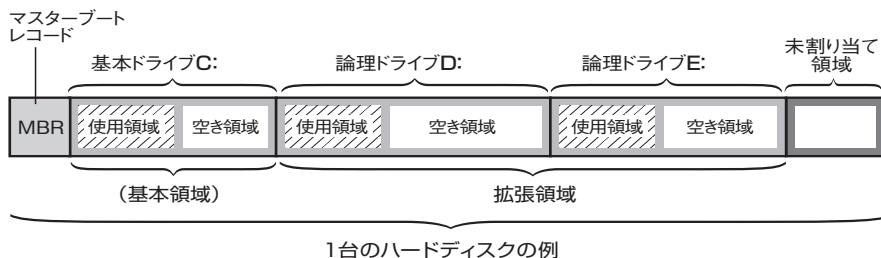
ハードディスクに複数のオペレーティングシステム (OS) をインストールして、切り替えて起動できるようにすること。

未割り当て領域

ハードディスクの中でパーティションが割り当てられていない部分のこと。空き領域ともいう。

レジストリ

ハードウェアやアプリケーションの設定情報を管理するファイル。このファイルが破損すると OS が起動しなくなることもある。



(株)アーク情報システム お客様情報保護方針

株式会社アーク情報システム（以下、弊社という）は個人情報保護に細心の注意を払っております。

お客様にご登録いただいた個人情報（以下、お客様情報という）に対し、弊社情報セキュリティ方針に従い、適切な保護を行います。

以下にお客様情報の保護方針を記載いたします。

1. お客様情報および使用目的について

弊社製品購入時のユーザー登録、セミナー参加申込み、お問合せフォーム等でお名前、ご住所、電話番号、電子メールアドレス、パスワード、弊社製品シリアル No. 等のお客様情報をお預かりする場合があります。

お預かりしたお客様情報は下記の場合に使用いたします。

- ・ご購入いただいた弊社製品のサポートをご利用いただく場合
- ・弊社から製品等をご購入いただく場合
- ・弊社が企画・参加するセミナー・イベントのご案内をする場合
- ・各種お申込みのお礼、またお申込みをいただいた資料等を送付する場合
- ・弊社製品のアップデート、およびそれらの情報をご提供する場合
- ・弊社新製品の情報、およびサービス等をご案内する場合

2. お客様情報の提供および開示について

原則として、お客様情報を第三者へ提供・開示することはありません。ただし、以下の利用目的でお客様情報を提供させていただく場合があります。

・外部業者への業務委託をする場合

お客様へ製品・サービス・弊社情報等を発送や提供するため、アンケート等を実施するため等で、外部業者等へ業務を委託する場合があります。この場合には、弊社の厳正な管理の下で業務を行うことを目的に、必要最小限のお客様情報を提供する場合があります。

・法令等に基づき、お客様情報の開示が必要な場合

法令や条例等で認められた権限を持つ機関からの要請があった場合には、お客様の許可なくお客

様情報を提供・開示する場合があります。

・クレジットカード会社、その他金融機関とのお客様情報の共有

クレジットカードによるオンライン決済やその他の決済のためにお客様のお名前等をクレジットカード会社、その他金融機関に照会させていただく場合があります。

3. お客様情報の管理について

お客様情報を厳正に保護し、不正使用、漏えい、棄損、改ざん、不正アクセス等の無いように努めます。

お客様情報の閲覧、変更等は、弊社 Web サイトにてお客様ご自身で行うことが出来る場合があります。お客様情報の取り扱いに関するお問合せ、および変更等がお客様ご自身で行うことの出来ない場合には各製品のお客様相談窓口までご連絡をお願いいたします。お客様ご自身を弊社にてご確認させていただけた場合に限り、合理的範囲内で速やかに対応させていただきます。

4. セキュリティについて

個人情報保護規定を策定し、適切な運用管理に努めております。お預かりしたお客様情報は、ファイヤーウォール等で保護されたサーバーにて保管し、不正アクセス等による漏えい、改ざんの起こらないように努めます。

弊社 Web サイトにて、お客様情報をお預かりする際やお客様ご自身でお客様情報の閲覧、変更等を行う場合には、SSL（Secure Socket Layer）プロトコルを使用して安全性を高めております。

お客様がご自身の個人情報を管理するために設定された電子メールアドレス、パスワード等に関しては、お客様ご自身で厳重な管理をお願いいたします。

5. Cookie（クッキー）使用について

弊社 Web サイトでは、Cookie と呼ばれる技術を使用したページがあります。この Cookie 技術の使用により、より利用しやすい Web サイトのご提供を行っております。

ただし、この Cookie により、お客様情報を識別するものではありません。また、Cookie 機能をお客様により無効とされた場合には弊社 Web サイトの全部、または一部がご使用いただけない場合があります。

6. 個人情報保護方針に関する改訂について

弊社では、より良くお客様の個人情報の保護を図るために、また法令その他の規範の変更に伴い、お

客様情報保護方針の全部または一部を改訂することがありますので、定期的にご確認されることをお勧めいたします。

7. お客様情報に関するお問合せについて

お客様情報保護方針、およびお客様情報に関するお問合せ窓口は下記で承っております。

- ・ 株式会社アーク情報システム
企画販売部 お客様情報保護方針相談窓口
- ・ E-Mail お客様情報保護方針担当
privacy@ark-info-sys.co.jp
- ・ ホームページ
<http://www1.ark-info-sys.co.jp/>

ユーザーサポートのご利用にあたって

お問合せになる前に

①操作方法・トラブル内容について調べる

インターネット接続が可能な場合は、FAQ（よくあるお問合せ）をご覧ください。操作上の注意点、トラブル内容と対処方法などが記載されています。

<http://www1.ark-info-sys.co.jp/support/index.html>

②アップデートをダウンロードする

最新アップデートを適用することにより、改善場合があります。下記からダウンロードしてください。

<http://www1.ark-info-sys.co.jp/download/index.html>

③弊社サポートへ問い合わせる

上記によっても解決しないとき、またはインターネット接続ができない場合に弊社ユーザーサポートをご利用ください。

お問合せ先

■メールフォーム：https://www2.ark-info-sys.co.jp/ARK_N/MailSupport/MainGate.asp

■FAX：03-3234-9252

■TEL：03-3234-9251（祝祭日・弊社休業日を除く（月）～（金）の10～12時、13～17時）

※FAXの場合、「ユーザーサポート申込書」をコピーしてご記入のうえお送りください。

※メール・FAXの場合、お問合せの内容により3～5営業日ほどお時間をいただく場合があります。あらかじめご了承ください。

※曜日や時間帯によってはお問合せが集中し、お電話がつながりにくくなる場合がございます。その際は、恐れ入りますが時間をずらしてお電話をいただきますようお願いいたします。

お問合せの際には

お問合せいただく際、メール、FAX、電話のいずれの場合においても以下の項目が必要です。

① ユーザー ID

② 製品名、バージョン、シリアルナンバー

③ ご使用の OS（Windows XP など）

④ エラーメッセージ全文

障害の状況により、さらに詳しい情報が必要な場合があります。エラーが発生するまでの手順を、箇条書きでお知らせください。

（例） 1. メイン画面で「開始」ボタンをクリック

2. アプリケーションエラーが発生

エラーメッセージ「*****」（正確に転記してください）



● 弊社で動作保証している環境以外（自作のコンピュータ、ショップメイドのコンピュータ、CPU オーバークロック、そのほかハードウェアの改造など）で不具合が発生するケースにおいては、パーツの相性や、デバイスドライバーがその一因となっていることがあります。

● その場合、すべてのパーツの組み合わせの相性テストは不可能であり、弊社ユーザーサポート環境にて再現性のない場合や、相性により発生していると思われる問題につきましては対応が不可能な場合もあります。ご了承ください。

● 他社製品、シェアウェアなどのパーティション操作ソフトウェア（マルチブートユーティリティなど）との共存は原則としてサポート外とさせていただきます。

この用紙をコピーして各項目にご記入の上、下記まで FAX にてお送りください。

必ずユーザー登録終了後にユーザーサポートをお申し込みください。

FAX 03-3234-9252

株式会社アーク情報システム 企画販売部 ユーザーサポート係 行

「HD 革命 /WinProtector Ver.4」 ユーザーサポート申込書

お使いの環境を、わかる範囲でご記入ください（この用紙でユーザー登録はできません）。

●弊社からお客様への連絡方法 （FAX、E-Mail のどちらかを指定ください。ただし、ご希望に添えない場合もありますのでご了承ください。）

1. FAX 2. E-Mail

●お客様のお名前・ご連絡先・対象の製品 （※ は必ずお書きください）

※お名前：

TEL： FAX：

E-Mail アドレス：

※シリアルナンバー：

アップデートの有無：有・無（Ver.）

●お使いのコンピュータについて

メーカー名：

機種名とシリアルナンバー：

メモリー（RAM）容量：

Windows の種類： Windows XP Home / Pro（SP

Windows Vista Basic / Premium / Business / Ultimate（SP

Windows 7 Starter / HomePremium / Professional / Ultimate（SP

32 ビット版 / 64 ビット版

接続されている周辺機器：

.....

ボード、カードをご利用の場合

・ I/F：SCSI、eSATA、RAID、USB2.0、IEEE1394、その他（

・ メーカー、型番、チップセット：

.....

●お使いのソフトウェアについて

インストールされているアプリケーションプログラム：

.....

●障害が生じた操作 (□にチェックを入れてください)

- ☐ HD 革命 /WinProtector のインストール
- ☐ 保護の開始
- ☐ 保護の解除
- ☐ オプションの設定時
- ☐ Windows の起動時 (解除セクターの表示)
- ☐ Windows の終了時 (終了ダイアログの表示)
- ☐ データトランスファー
- ☐ その他

●設定内容

保存先

- ☐ メモリー
- ☐ ハードディスク
- ☐ メモリー+ハードディスク

一時ファイルの設定 (ハードディスク)

設定した一時ファイルのサイズMB

一時ファイルの設定 (メモリー)

設定した一時ファイルのサイズMB

- ☐ システムメモリーのみ
- ☐ OS 管理外メモリーのみ
- ☐ システムメモリー + OS 管理外メモリー

インデックスの設定

- ☐ システムメモリーのみ
- ☐ OS 管理外メモリーのみ
- ☐ システムメモリー + OS 管理外メモリー
- ☐ ハードディスク

エラーメッセージ:

.....

現象:

.....

.....

エラーメッセージ: _____

現象：

エラーメッセージ:

現象：

エラーメッセージ: _____

現象：

エラーメッセージ: _____

- ・本ユーザーズ・マニュアルは PDF ファイルとして提供しており、Adobe Reader（Adobe 社の閲覧ソフトウェア）を使用し、オンラインマニュアルとしてご利用いただくことができます。
- ・Adobe Reader はセットアップ画面からインストールすることができます。

- ・Microsoft[®], Windows[®]7, Windows[®]Vista, Windows[®]XP, Windows PE は米国 Microsoft Corporation の、米国および他の国における登録商標または商標です。
- ・その他の会社名、商品名は、それぞれの会社の登録商標または商標です。

HD 革命 /WinProtector Ver.4 ユーザーズ・マニュアル

2012 年 3 月 1 日 第 1 版発行

発 行 株式会社アーク情報システム

〒102-0076 東京都千代田区五番町 4- 2 東プレビル

© 2012 Ark Information Systems

乱丁・落丁はお取り替えいたします。

著作権法の範囲を超え、本書を無断で複写、複製、転載することを禁じます。